



## 「養豚業にて 学ぶ自分」

養豚経営：

新潟市南区西笠巻新田  
有限会社 キープクリーン 社員

### 田中 尚樹氏



この度私は、養豚農場に新入社員として入社した。養豚の経験はまったくないが、学生の頃、水産学校にて栽培養殖科を専攻した経験があり、生き物が好きな私にとって、養豚を通じた充実した日々を送っている。

養豚の勉強をさせてもらいながら作業に取り組んでいるが、養豚業は奥が深く私の気持ちの中には驚きの毎日である。少しでも理解を深め役立てられる様勉強の毎日であり、自分の力になるよう種付け、出産から出荷までの成長に応じたステージ別の肥育技術を勉強をしている。ただ、その中で特に作業的に難しいと思う所は豚の体調判断である。病気や体調不良等の状況を読み取り判断するところはまだ不十分である。餌食いが良くなかったり、子豚の下痢や嘔吐の対応は即座に判断できない。また豚の大切な餌と飲水関係器具の故障を発見し補修や対処する所は特に難しいと思っている。私の目標は、母豚の元気な状態での出産、元気な子豚として健やかに育ち、たくましく丈夫な肉豚として出荷され、それがおいしいお肉として食卓にのぼり、消費者の皆さんに美味しいと喜んで食べていただきたいと思っている。まだまだ、飼養管理に関しては学ぶ所は山積みであるが、一つ一つ確実に自分の力として活かせる努力をして頑張りたいと思っている。他に将来の夢としてはファームを切り盛りできる人材を目指して、自らに課題を課して少しでも会社や養豚業界に貢献できる様一生懸命仕事に専念したいと考えている。

## 「牛舎焼失を乗り越えての 酪農経営」

酪農経営：

長岡市宮本東方町 広川 寛氏



2001年9月、思いがけない牛舎の火災により40頭程いた牛がほとんど焼死し、生き残ったやけどだらけの5頭と、あちこち焦げた堆肥舎とサイロ、そして真っ黒くただ立っているだけの柱が残った牛舎を目前にして途方にくれてしまった。火災前の経営がすべて順調だった訳でもないのに「廃業」か「存続」かの大きな別れ道であった。「自分にできることは何か。」「自分にしかできないことは何か。」を問いかけて得た答えは「存続」であった。各地の農場視察に始まり、飼養形態の検討、融資書類の作成と申請、業者の選択等であった。気がついたら5年という時が経過し、この5年で保険金と貯金を食いつぶしてしまった。生活自体が苦しいものであったが、北海道から沖縄まで様々な方と出会うことができ、アドバイス、激励をいただいたことは本当に嬉しく感謝している。2007年1月23日にフリーバーン牛舎が完成し、スタートしてから半年が過ぎようとしているが、始めの頃は不安と恐怖が入り混じった日々が続いた。初めてのパーラーでの搾乳、牛は新しい飼養形態に馴れるのか、病気の発生はないのか、牛床は良い状態を保てるのか、臭いは、糞の量は、借金は返せるのか、家庭生活は大丈夫か、等々心配しなくともいいことまで頭を悩ませていた。しかし、フリーバーンならではの新しい発見もあった。スタンションを自分で外す牛、足を投げ出して白目をむいて寝る牛、夢を見ているのかピクッと動く牛など自分の20年ほどの酪農生活の中では見ることでできなかった牛の姿をこの半年の間で見せてもらった。消費低迷による生産調整、飼料高騰、搾りたいけど搾れない国内事情、搾るにしても飼料が高い。そんな状況が続く昨今であるが、そんな今だからできることは、体細胞・細菌数の低減、牛の体調管理の徹底で高品質牛乳の生産を酪農家の責任とプライドで向上させること、そしてそれを評価する場所、アピールすることが必要なのではないかと思う。